

法人企業景気予測調査結果 高知県の概要

令和 7 年 7～9 月期調査

目 次

調 査 要 領	1
1. 企 業 の 景 況	2
2. 従 業 員 数	3
3. 売 上 高	4
4. 経 常 利 益	4
5. 設 備 投 資	4
6. 資 料 編	5

(1)判断調査項目BSI表(原数値)

(2)今年度における設備投資の対象

(3)人手不足が会社経営に与える影響

財 務 省 四 国 財 務 局
高 知 財 務 事 務 所

調 査 要 領

1. 調査の目的と根拠

我が国経済活動の主要部分を占める企業活動を把握することにより、経済の現状及び今後の見通しに関する基礎資料を得ることを目的に、統計法に基づく一般統計調査として内閣府と財務省が共管で実施。

2. 調査対象の範囲

高知県に所在する資本金、出資金又は基金(以下、資本金という)1千万円以上の法人企業。
(「電気・ガス・水道」及び「金融、保険」は資本金1億円以上)

3. 調査対象企業数及び回収状況

高知県の調査対象企業数及び回収状況は次のとおり

	調 査 企 業 数 (社)	回 答 企 業 数 (社)	回 収 率 (%)
製 造 業	39	39	100.0
非 製 造 業	58	56	96.6
合 計	97	95	97.9

4. 調査時点

令和 7 年 8 月 15 日

5. 調査対象期間(時点)

- ・ 判 断 項 目 : 現 状 (令和7年7～9月期及び9月末)
見 通 し (令和7年10～12月期及び12月末、令和8年1～3月期及び3月末)
- ・ 計 数 項 目 : 令和7年度

6. 調査方法

調査票による郵送またはオンライン調査(自計記入による)

7. 参 考

BSI(Business Survey Index)は、前期と比較した「上昇」又は「下降」等の変化方向別の回答社数の構成比から、先行きの経済動向を予測する方法である。

例 「企業の景況」の場合

前期と比べて

「上昇」と回答した企業の構成比・・・40.0%

「不変」と回答した企業の構成比・・・25.0%

「下降」と回答した企業の構成比・・・30.0%

「不明」と回答した企業の構成比・・・ 5.0%

BSI=(「上昇」と回答した企業の構成比40.0%)－

(「下降」と回答した企業の構成比30.0%)=10.0%ポイント

1. 企業の景況

現状7～9月期は、全産業で5.3%ポイントの「下降」超となっており、3期連続で「下降」超となっている。業種別にみると、製造業は25.6%ポイントの「下降」超となっており、非製造業は8.9%ポイントの「上昇」超となっている。

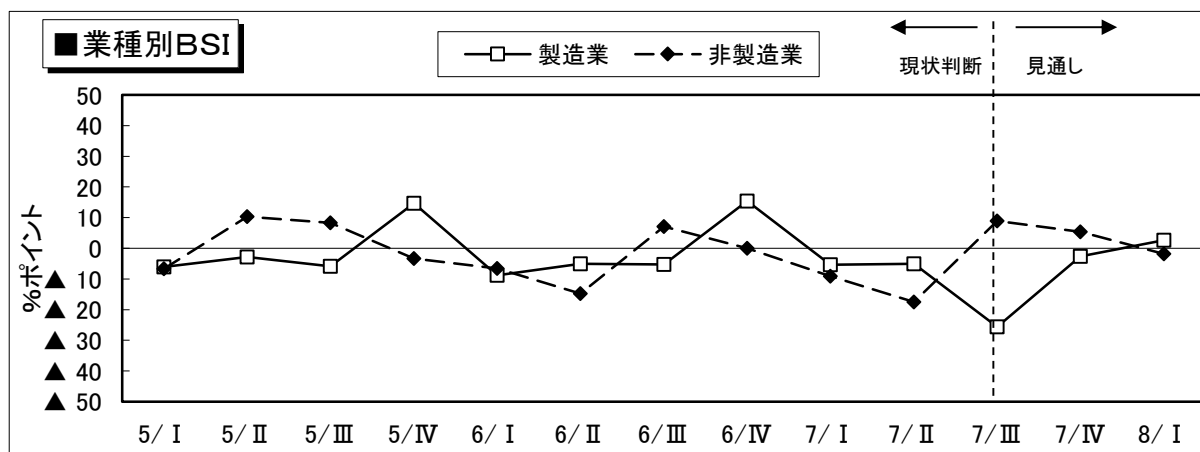
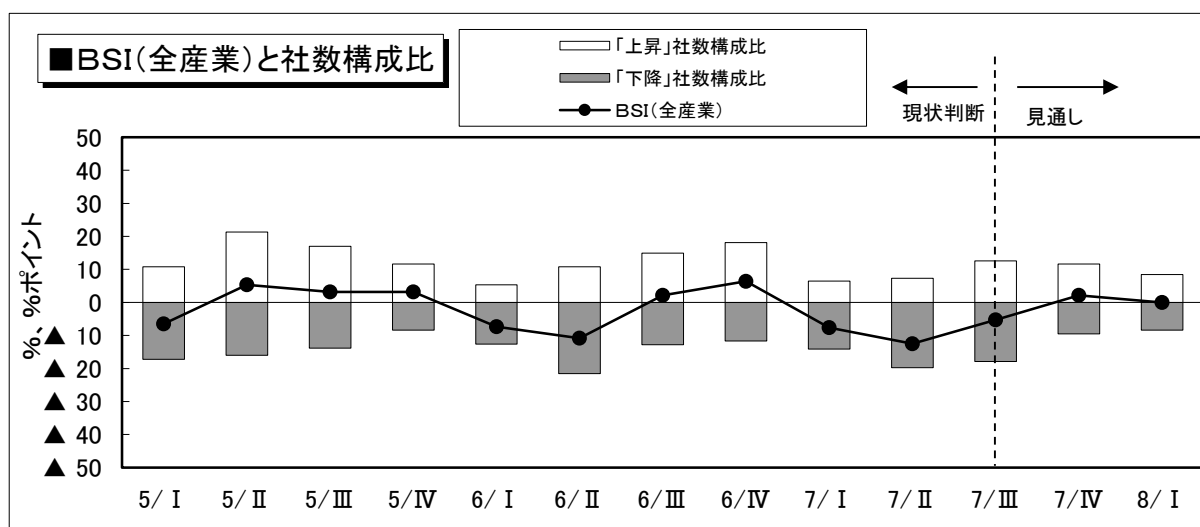
先行きについて全産業でみると、10～12月期は2.1%ポイントの「上昇」超となり、1～3月期は「上昇」「下降」同数で0.0%ポイントとなる見通しとなっている。

企業の景況判断 BSI(前期比「上昇」-「下降」社数構成比)〔原数値〕

(単位: %ポイント)

区 分	7年4～6月 前回調査	7年7～9月 現状判断	7年10～12月 見通し	8年1～3月 見通し
全 産 業	▲ 12.5	(▲ 1.0) ▲ 5.3	(0.0) 2.1	0.0
製 造 業	▲ 5.1	(0.0) ▲ 25.6	(▲ 2.6) ▲ 2.6	2.6
非 製 造 業	▲ 17.5	(▲ 1.8) 8.9	(1.8) 5.4	▲ 1.8

(注) () 書きは前回調査時の見通し



2. 従業員数

現状9月末時点は、全産業で17.9%ポイントの「不足気味」超となっている。業種別にみると、製造業、非製造業ともに「不足気味」超となっている。

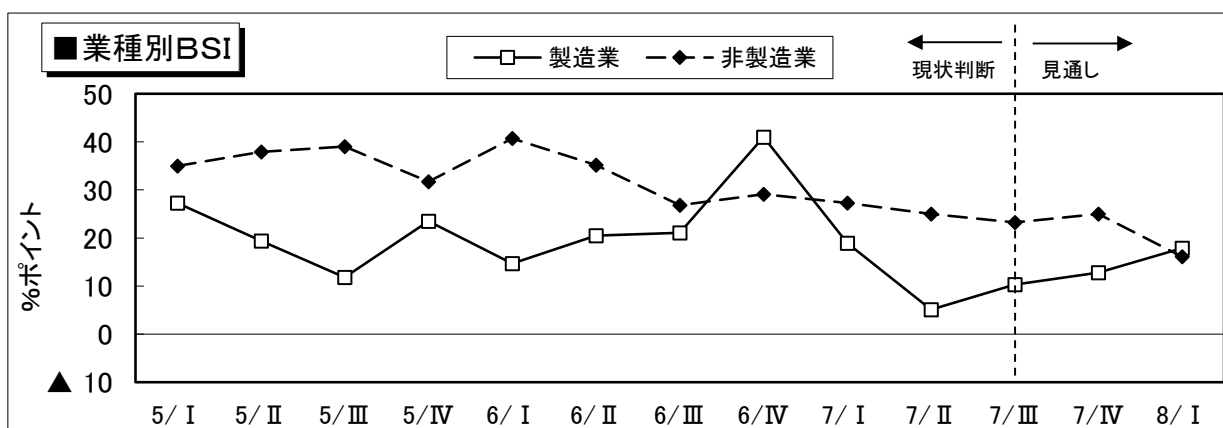
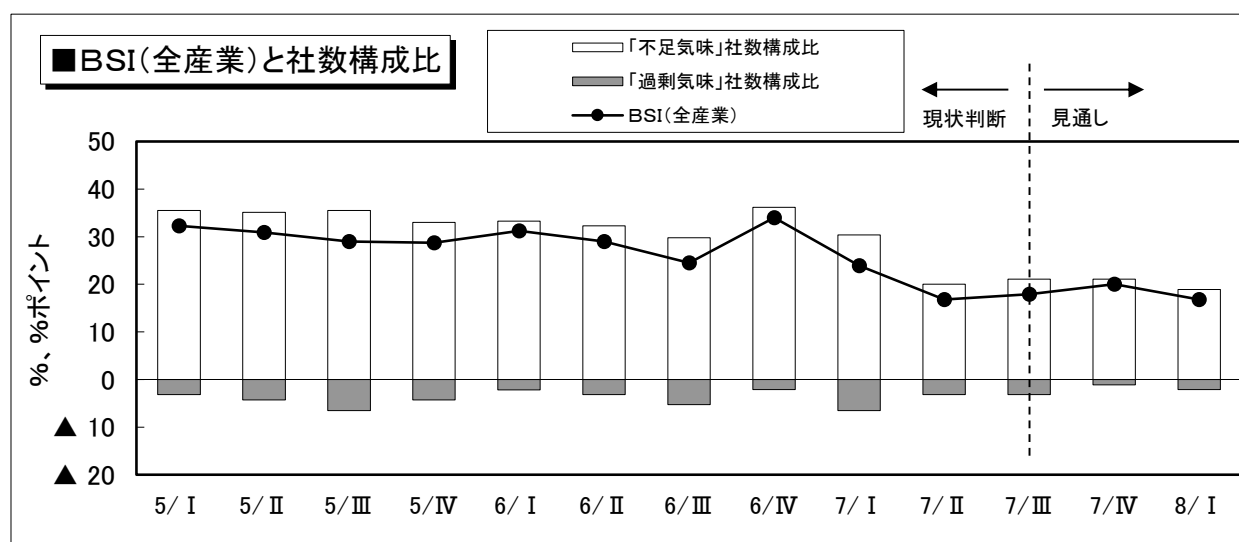
先行きについて全産業でみると、12月末、3月末ともに「不足気味」超となる見通しとなっている。

従業員数判断 BSI(期末判断「不足気味」-「過剰気味」社数構成比)〔原数値〕

(単位: %ポイント)

区 分	7年6月末 前回調査	7年9月末 現状判断	7年12月末 見通し	8年3月末 見通し
全 産 業	16.8	(15.8) 17.9	(10.5) 20.0	16.8
製 造 業	5.1	(5.1) 10.3	(2.6) 12.8	17.9
非 製 造 業	25.0	(23.2) 23.2	(16.1) 25.0	16.1

(注) () 書きは前回調査時の見通し



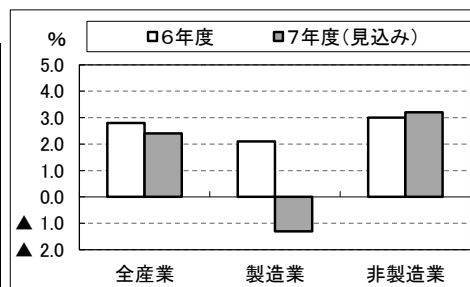
3. 売上高

7年度は、全産業で2.4%の増収見込みとなっている。
業種別にみると、製造業は1.3%の減収見込み、非製造業は3.2%の増収見込みとなっている。

売上高(前年度比増減率)

(単位: %)

区 分	6年度	7年度
全 産 業	2.8	2.4
製 造 業	2.1	▲ 1.3
非 製 造 業	3.0	3.2



(注1)「電気・ガス・水道」、「金融、保険」を除く県内に本店が所在する企業

(注2)6年度は7年1～3月期調査の結果

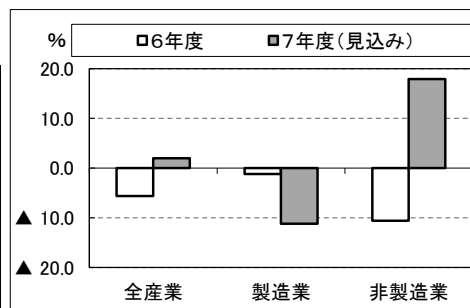
4. 経常利益

7年度は、全産業で2.0%の増益見込みとなっている。
業種別にみると、製造業で11.2%の減益見込み、非製造業で17.9%の増益見込みとなっている。

経常利益(前年度比増減率)

(単位: %)

区 分	6年度	7年度
全 産 業	▲ 5.6	2.0
製 造 業	▲ 1.2	▲ 11.2
非 製 造 業	▲ 10.6	17.9



(注1)「電気・ガス・水道」、「金融、保険」を除く県内に本店が所在する企業

(注2)6年度は7年1～3月期調査の結果

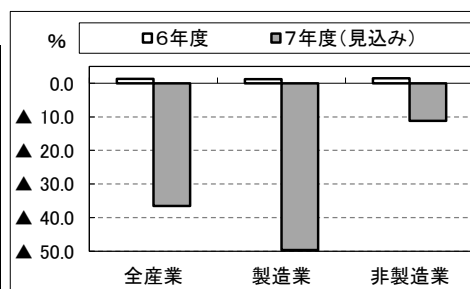
5. 設備投資

7年度は、全産業で36.5%の減少見込みとなっている。
業種別にみると、製造業で49.6%の減少見込み、非製造業で11.2%の減少見込みとなっている。

設備投資(前年度比増減率)

(単位: %)

区 分	6年度	7年度
全 産 業	1.3	▲ 36.5
製 造 業	1.2	▲ 49.6
非 製 造 業	1.5	▲ 11.2



(注1)土地購入額を除き、ソフトウェア投資額を含む

(注2)6年度は7年1～3月期調査の結果

6. 資料編

(1) 判断調査項目BSI表(原数値)

業種別 項目別	全産業			製造業			非製造業		
	7年 7～9月	10～12月	8年 1～3月	7年 7～9月	10～12月	8年 1～3月	7年 7～9月	10～12月	8年 1～3月
①企業の景況 「上昇」-「下降」	▲ 5.3	2.1	0.0	▲ 25.6	▲ 2.6	2.6	8.9	5.4	▲ 1.8
②国内の景況 「上昇」-「下降」	▲ 8.6	▲ 1.4	▲ 2.9	▲ 19.2	▲ 11.5	▲ 3.8	▲ 2.3	4.5	▲ 2.3
③※生産・販売など のための設備 「不足」-「過大」	0.0	2.9	1.4	▲ 3.8	7.7	7.7	2.3	0.0	▲ 2.3
④※従業員数 「不足気味」- 「過剰気味」	17.9	20.0	16.8	10.3	12.8	17.9	23.2	25.0	16.1

(注)※は期末判断項目

(2) 今年度における設備投資の対象

業 種 別 項 目 別	全 産 業		製 造 業		非 製 造 業	
	構 成 比	順 位	構 成 比	順 位	構 成 比	順 位
建物(本社・支社等の内部管理用)	22.6%	6	24.0%	5	21.6%	7
建物(工場・店舗等の生産・販売等用)	27.4%	5	16.0%	7	35.1%	3
建物以外の構造物・構築物	22.6%	6	20.0%	6	24.3%	6
生産・販売等の機械及び装置(5を除く)	50.0%	①	80.0%	①	29.7%	5
情 報 機 器	41.9%	3	32.0%	3	48.6%	①
車両、船舶及び航空機等	14.5%	8	16.0%	7	13.5%	8
工 具 、 器 具 及 び 備 品	50.0%	①	52.0%	2	48.6%	①
ソ フ ト ウ ェ ア	32.3%	4	28.0%	4	35.1%	3
土 地	8.1%	9	12.0%	9	5.4%	9
そ の 他	4.8%	10	4.0%	10	5.4%	9

(3) 人手不足が会社経営に与える影響

業 種 別 項 目 別	全 産 業		製 造 業		非 製 造 業	
	構 成 比	順 位	構 成 比	順 位	構 成 比	順 位
賃上げに伴う人件費の上昇	50.0%	①	40.0%	4	56.1%	①
採用コストの増加	43.9%	4	52.0%	2	39.0%	4
業務負担・勤務時間の増加	50.0%	①	52.0%	2	48.8%	2
サービス・品質の低下	37.9%	5	20.0%	6	48.8%	2
受注量・生産量の制限	22.7%	6	36.0%	5	14.6%	6
事業の縮小・撤退	1.5%	9	0.0%		2.4%	9
技術伝承・人材育成の停滞	48.5%	3	64.0%	①	39.0%	4
無人化・省力化投資の増加	13.6%	7	12.0%	7	14.6%	6
特 に な し	10.6%	8	8.0%	8	12.2%	8
そ の 他	0.0%		0.0%		0.0%	

お問い合わせは

TEL (088)822-9177

総務課（内線710）又は

財務課（内線720）へ